

ソーシャルスキルトレーニングVR



FACE DUO

User's
Voice

vol.10

大学病院で 初めて導入となった 関西医科大学での 活用事例

関西医科大学
精神神経科学講座

名誉教授 木下 利彦 先生



さまざまな場면을VRで再現

リアルな仮想空間で何度でも楽しみながら
社会生活スキルを習得できます

買い物する場面



注文をとる場面



当院について

患者さんの人生を支える

臨床上の特色としては、通常の外来・入院治療に加え、複雑化する精神疾患に対処するため、精神疾患患者の社会復帰を目的として、大規模デイケアを中心としたリハビリテーション部門、心理臨床部門、認知症部門を包括した「精神医療総合センター」を1999年に設置したことにあります。

デイケアでは、社会復帰・社会参加したいと考えている患者さんのリハビリと支援を行っています。疾病教育やSST（ソーシャル スキルトレーニング）、認知行動療法、ストレスケアマネジメントなどの専門的プログラムを実施しています。また、作業療法部門との連携により、入院時から外来まで幅広くフォローを行う訓練型の施設として位置付け、地域他施設と密な連携を取り、それぞれの患者さんに最も適したリハビリテーション・就労などの社会復帰への道筋を提供しています。



導入のきっかけ

精神科医療におけるデジタルの可能性

関西医科大学精神科では、医療ニーズに即した治療、反復経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）、修正型電気痙攣療法（m-ECT）など最新の技術を積極的に取り入れています。

近年、AIの進歩や環境の大きな変化により、ヘルスケア・精神科医療へのデジタル化が急速に進んでいます。

FACEDUOはバーチャルリアリティ技術を活用したSST支援ツールであり、当院で大事に続けてきたSSTと融合することで、当事者と支援者にとって、より良い社会復帰プログラムとして進化していくことを期待しています。



名誉教授 木下 利彦 先生

FACEDUOに期待すること

客観的な指標を活用して



診療教授 嶽北 佳輝 先生

精神医学において、診断や治療の評価はいまだ症候学的方法で実施されており、客観的な指標が求められています。FACEDUOはデジタル製品であるため、体験履歴が自動で記録されるとともに、体験者が見た動画が記録され、その視点を確認できるところに利点を感じています。視点ログは、体験前後での変化をみることで、患者さんの状態を客観的に評価することが可能となります。

また、精神科治療において、薬物療法と共に重要であると言われる、SSTを含めた精神科リハビリテーションは、臨床において十分に実施されているとは言えません。

標準化されたSST支援プログラムであるFACEDUOが、多くの精神疾患を有する患者さんに実施されることで、効果的なリハビリテーションの実施に繋がり、ひいては患者さんにより良いアウトカムが得られることを期待しています。

FACEDUOの体験記録の活用

VRゴーグルを通した体験履歴として、体験した日時、コンテンツ、動画データが自動で記録され、イベント毎、患者さん毎に閲覧することができます。また、体験時の情報を申し送り事項に記載することもできるため、次回のSSTセッションでの振り返りに役立ちます。

体験日時

体験したコンテンツ



体験動画（視点ログ）

VRゴーグル体験中の患者さんの視点は自動解析され、マイページで確認ができます。視点を確認することで、患者さんの特性を知るきっかけとなり、その変化にも注目することができます。

対人面を苦手としている患者さんは視点が相手の顔に向いていないなどの特性が理解できます。

SSTを実施するうえでの課題とFACEDUO

当院デイケアのスタッフは経験値にばらつきがあり、以下のような課題を抱えています。

1. 課題設定

参加者の意図に沿った主体的な課題設定（焦点化）

2. 手法の選択

基本訓練モデルと問題解決技能訓練の使い分け

3. 集団の扱い方

参加者個々の特性に併せた臨機応変な対応やフォローアップ

FACEDUOは構造化されたプログラムとなっており、セッションを円滑に進める補助具的な役割を担ってくれるため、経験の少ないスタッフも実践できるようになっています。

VR機器のリアリティ感は、完成度が高く、没入感を得やすいです。また、不安や緊張が高い人でも参加しやすく、ゲーム感覚で取り組みやすい特徴があります。VRプログラムによるサポート機能として、経験が少なくても安心して運営出来る、毎回同じ質のセッションが出来ること、練習課題が豊富なため、運営スタッフ（リーダー）の安心感に繋がります。



精神科デイケア室 高野 隼 先生

当院デイケアでのFACEDUO活用事例

デイケア開設当初から一度も中断することなくSSTを行っています。練習課題は基本的に参加者から出してもらい、基本訓練モデルと問題解決技能訓練を実施、モジュールは別枠で不定期に実施しています。現在は週3回午前中の時間枠でFACEDUOを用いたSSTセッションを実施しています。

FACEDUOを用いたSSTセッションの流れ

FACEDUOを用いたSSTセッションの流れは大きく5つのパートで構成されています。

1つのテーマ（スキル）につき、3回のVR体験を行います。VR体験の後には参加者同士での話し合いを行い、理解や気づきの促進を図ります。

導入・チェックイン (15分)



- 挨拶&本日の体調（感情や気分）の確認
- 参加のルール（ポスター）を声に出して確認
- 先週の振り返り&本日のテーマ発表

状況体験VR+話し合い (20分)



- 困っている場面をVRで視聴（当事者体験）
- VRで体験した内容について質問し、参加者の理解度を確認
- 参加者へ類似体験の有無を問う

工夫発見VR+話し合い (20分)



- 状況体験場面において役立つ工夫（対処法）を見出していくストーリーをVRで体験
- VRで提示された方法以外にも役立ちそうな方法について参加者から意見を出してもらう

休憩（5～10分）

実践練習VR+話し合い (15分)



- ロールモデルをVRで視聴後、参加者自身が当事者となり、実際にロールプレイに参加する
- ゴーグルを交換し、参加者全員が体験
- うまくいった点・難しかった点・さらに良くする点を用いて振り返る

まとめ（5分）

- セッションの要約と学んだスキルの確認
- 実践時のポイントの再確認

Point



FACEDUOはSSTセッションが構造化されたプログラムであるため、経験の少ないスタッフでも、VR体験とディスカッションにより実践的なSSTが実施できる

詳しくは公式サイトにて

faceduo

検索

販売 Otsuka

開発・製造 JOLLY GOOD!